

2025年度学校経営シート

学校法人三重徳風学園

使命宣言（ミッション・ステートメント）：「私たちは、生徒の自立と社会参加を目指し、自尊感情を高める実践を追求します。」

価値宣言（バリュー・ステートメント）：「私たちは、生徒・保護者・職員・学校関係者とのコミュニケーションを大切にします。」

1 スクール・ミッション（本学園の存在意義・社会的役割を踏まえどのような学校の実現を目指すかを示す「目指す学校像」）

- 1 さまざまな課題・特性を持ち、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも頑張っ生きていこうとする子どもたちを受け入れ、仲間と共に学校生活を送る場を徹底して保障する学校（“No student is left behind.”）
- 2 生徒が「社会人として必要な基礎的・基本的な学力」と「職業人として必要な実践的・専門的な技能」を身に付け、入学時に想定されたよりも大きな成長を遂げて「自立と社会参加」を果たす学校（Self-reliance and social participation through overachievement）
- 3 生徒が「この学校で学べて良かった」、保護者が「この学校に通わせて良かった」、教職員が「この学校で勤務して良かった」と心から思える学校（We love“Tokufu.”）

2 スクール・ポリシー

（1）目指す生徒像（卒業までにどのような資質・能力を身に付けた生徒の育成を目指すかを示す「グラデュエーション・ポリシー」）

- 1 自己成長感（「できなかったことや諦めていたことができるようになった。得意だったことがもっと得意になった。」という実感）、自己効力感（「どのような問題でも、関連する知識を身に付けたり情報を得たりして努力・工夫すれば、ある程度は解決できる。自分もやればできる。」という実感）、自己有用感（「集団や社会の一員として自分は確かに役立っている。」という実感）を持った自尊感情の高い生徒（Self-esteem）
- 2 自己指導能力（その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を有する生徒（Self-guidance）
- 3 ソーシャルスキル（他者と良好な関係を形成・維持していくための知識・技能）とライフスキル（社会生活・職業生活等に必要な基礎的・基本的な知識・技能）を身に付けた生徒（Social-skills and Life-skills）

（2）目指す教育課程（「目指す学校像・生徒像」を実現するためにどのような目標・内容の授業を行うかを示す「カリキュラム・ポリシー」）

- 1 「自立と社会参加」に必要な「基礎的・基本的な学力」と「実践的・専門的な技能」を身に付けることができる教育課程
- 2 「自立と社会参加」に必要な「自尊感情」を高めることができる教育課程
- 3 「自立と社会参加」に必要な「ソーシャルスキル」と「ライフスキル」を身に付けることができる教育課程

(3) 期待する入学者像（入学時にどのような生徒を積極的に受け入れるかを示す「アドミッション・ポリシー」）

1	どの学校に進学するかを決め、その学校の入学試験に合格し入学するという課題に対し、人任せにせず自分で解決しようと決心した生徒
2	自らの課題・特性により「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも、屈することなく頑張って生きていこうと決心した生徒
3	「自分を変えたい、変わりたい」という思いで「学び直し」・「生き直し」をしようと決心した生徒

(4) 目指す職員像（職員にどのような姿勢・態度の体現を期待するかを示す「スタッフ・ポリシー」）

1	多忙な同僚を助け、役割と役割の隙間にある誰の仕事でもない仕事を自分の仕事と捉えて動く協働と利他の精神（Collaboration & Altruism）を体現した職員
2	スクール・ミッションの実現に向けて主体的に職能成長を続ける専門職（Profession）としての姿勢を体現した職員
3	「優しさ」と「厳しさ」を併せ持ち、「個性」を生かしつつ「同僚性」を高め、「自由」を愛し「規律」を尊ぶ姿勢（Synthetic Competence）を調和的に体現した職員

(5) 目指すコース像（どのような知識・技能を習得し、どのような人材育成に取り組むかを示す「コースマネジメント・ポリシー」）

総合コース	社会生活・職業生活に求められる基本的な知識・技能を習得し、自信を持って自立と社会参加を果たす “最強の常識人” を育成するコース
ドッグケアコース	犬の訓練・美容に関する基本的な知識・技能を習得し、動物との共生と愛護精神の向上に貢献する “ドッグマスター” を育成するコース
パソコンコース	情報社会で生きる基本的な知識・技能を習得し、学習の個性化と指導の個別化の徹底を通じて “とがったITジェネラリスト” を育成するコース
日本語コース	「学ぶための日本語」と社会参加に必要な「生きるための日本語」を習得し、希望進路を実現する “自立した日本語使用者” を育成するコース

3 学校経営上の重点目標

本学園には、高等学校通信教育の形態、教育課程の実施方法、生徒の学校生活の送り方等に関して、他ではあまりみられない特色ある仕組みや取組が次のとおりたくさんあります。それらを本学園では**“徳風スタイル”**と表現しています。

	徳風スタイル			
教育システム	<input type="checkbox"/> 高専併修による“ダブルスクール教育”	<input type="checkbox"/> 日本語コース設置	<input type="checkbox"/> チーム担任制	<input type="checkbox"/> 5年一貫教育(注1)
学校生活	<input type="checkbox"/> 30人学級	<input type="checkbox"/> 9時30分始業	<input type="checkbox"/> スクールバス通学	<input type="checkbox"/> 生徒寮 <input type="checkbox"/> 「徳風総合支援プログラム」による支援(注2)
授業	<input type="checkbox"/> 45分5限授業	<input type="checkbox"/> “ライフスキル”と“ソーシャルスキル”の習得	<input type="checkbox"/> 原則5日間の定期試験	<input type="checkbox"/> 徹底した補充授業(注3)
	<input type="checkbox"/> 「自立支援型デュアルシステム」の実施(注4)			
その他	<input type="checkbox"/> 「三重徳風学園奨励金制度(エンカレッジ制度)」(注5)			

(注1) ドッグケアコース・パソコンコースの生徒が徳風技能専門学校専門課程(2年間)のトリミング科・コンピュータ科に進学して知識・技能を向上させる仕組みのこと。

(注2) 特別な支援を必要とする生徒について、保護者や医療・福祉・行政等の関係機関との連携協力体制の下、当該生徒の成長を適切に支援するための取組のこと。

(注3) 学校に行きたくても行けない生徒など、やむを得ない理由で欠席を繰り返した生徒に対し、欠課時数の多い科目等の履修を可能な限り支援する仕組みのこと。

(注4) 標準的な実施方法や一部の専門高校が実施している「日本版デュアルシステム」とは異なる、本校生徒の実態等に即した拡大版インターンシップのこと。

(注5) 自らの課題・特性・環境を「バネ」にして前向きに生きていこうと頑張る生徒（例えば、アルバイトをして家計を助ける生徒、家事や家族の世話、介護等をしている生徒等）や学校指定の運動部に所属し勉学との両立に励む生徒等の支援を目的とする奨励金制度のこと。

当面、以下の3点を学校経営上の重点目標に据え、“徳風スタイル”を更に進化させていきます。

重点目標1：“フレキシブルスクール”としての更なる進化

- 本学園は令和2年度、徳風技能専門学校高等課程において、商業実務分野に属する「国際ビジネス科」に加え、文化・教養分野に属する「総合科」を新設して2分野2学科体制に拡充するとともに、“ダブルスクール教育”を可能にする徳風高等学校全日型コースとの連携制度について、令和2年度以降の入学生を対象に、年次進行で、それまでの「技能連携」（学校教育法第55条に基づき、都道府県教育委員会の指定する技能教育施設における学習を自校における職業教科の一部の履修とみなすことのできる制度）を取り止め、連携の裁量幅が格段に大きい「高専併修」（学校教育法施行規則第98条第1号に基づき、大学、高等専門学校又は専修学校等における学修を自校における科目の履修とみなし、当該科目の単位を与えることのできる制度）を新たに導入しました。
- この制度改革により設置可能となった「日本語コース」を第4のコースとして令和3年度に立ち上げ、「本格的な日本語教育を受けながら高卒資格を取得できる県内唯一の学校」として進化を図るなど、本学園は今後も、「社会の変化や地域の教育ニーズ等に応じて教育課程を柔軟に編成・実施する“フレキシブルスクール”」として進化を続けていきます。

令和元年度まで	徳風高等学校（全日型コース）	徳風技能専門学校高等課程		両校の連携制度	
		分野	学科		
	ドッグケアコース	商業実務分野	国際ビジネス科	技能連携	
	パソコンコース				
	総合コース				
令和2年度から	徳風高等学校（全日型コース）	徳風技能専門学校高等課程		両校の連携制度	
		分野	学科		
		ドッグケアコース	商業実務分野	国際ビジネス科	高専併修
		パソコンコース			
		総合コース	文化・教養分野	総合科 【令和2年度設置】	
	日本語コース【令和3年度設置】				

重点目標2：高等学校通信教育の更なる進化

- 本学園は、「徳風高等学校通信教育改革プラン」（令和6年12月13日策定）に基づき、徳風高等学校に設置する土日コース・平日サポートコースについて、令和8年度から募集を停止し、週3日通学する「3Day（スリーデイ）コース」と週1日通学する「1Day（ワンデイ）コース」に改編して募集を開始します。

	土日コース・平日サポートコース	3Dayコース・1Dayコース
令和7年度	（1～3年次の生徒及び4年次以上の生徒が在籍）	○諸準備（広報、教育課程編成、環境整備）
令和8年度	○募集停止 （2・3年次の生徒及び4年次以上の生徒が在籍）	○募集開始 ○学則変更 （1年次の生徒が在籍）
令和9年度	（3年次の生徒及び4年次以上の生徒が在籍）	（1・2年次の生徒が在籍）
令和10年度	○通信教育連携協力施設（浅井事務所）との賃貸契約解除。 ○修業年限を超える生徒にどちらかの新コースへの転籍を勧告。 ○土日コース・平日サポートコース廃止	○コース改編完了 （1～3年次の生徒が在籍）

- 土日コース・平日サポートコースの教育課程・学習環境等の刷新を図る「3Dayコース」・「1Dayコース」への改編を着実に実施することにより、さまざまな課題・特性を持ち、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも頑張っている子どもたちが、毎日通学しなくても「自尊感情」を向上させ、卒業後に「自立と社会参加」を果たすことができるよう、本学園の高等学校通信教育を進化させ、新たな“徳風スタイル”を築いていきます。

重点目標3：“働き方改革”の更なる進化

- 本学園は令和2年10月、「働き方改革アクションプラン」を策定しました。同プランでは、「全教職員がワークライフバランスを適切に確保し、生き生きと働くことができる労働環境を整備することは、本学園の円滑な学校経営と教育活動の独自性・卓越性を持続していくための基盤である。」との基本理念の下、単に労働時間・業務量の縮減や教職員定数の改善等を図ることだけに主眼を置くのではなく、「全教職員が日々の生活の質と自らの指導力・人間力を高めながら、豊かで充実した職業人生を送り、円滑な学校経営と効果的な教育活動を行うことができるようにするための時間的・精神的な『ゆとり』を確保すること」を目的として、本学園独自の「働き方改革」に取り組んできました。
- 「働き方改革アクションプラン」に示した20本の改革プランは、内容別に「やめる」「減らす」「変える」「始める・つくる」の4つに、実施時期別に「令和2年度中に実施」「令和3年度中に実施」「令和5年度末までに実施」「令和6年度以降に実施」の4つにそれぞれ区分し、概ね計画どおり実施してきました。
令和4年8月には「働き方改革推進プロジェクト」を立ち上げ、過重労働防止、多忙化解消、職員満足度向上及び健康経営促進を図る上で最も重要かつ緊急を要するとして改革プラン12「寮監業務の抜本的改革」及び改革プラン16「1年単位の変形労働時間制の導入」に特に注力し、令和6年度に両プランを実施したところです。
今後も、両プランの定着を図るとともに、改革プラン20「時間年休の導入」を早期に実施するなど、引き続き「働き方改革」を進めていきます。

	「働き方改革アクションプラン」(令和2年10月策定)	
	令和2～5年度	令和6年度以降
やめる	改革プラン1：教員の急な欠勤に伴う時間割変更の取止めと自習授業の実施	
減らす	改革プラン2：土日コースのスクーリング時数削減 改革プラン3：広報活動の実施回数削減 改革プラン4：除草作業の実施回数削減	
変える	改革プラン5：文書・チラシ等の折込作業等の機械化 改革プラン6：2学期三者懇談会の対象生徒の制限 改革プラン7：オンライン授業（金曜4限）を含む時間割の編成・実施 改革プラン8：職員室の机配置の一部変更 改革プラン9：広報チラシ等作成業務の完全業者委託 改革プラン10：教員間の交渉による時間割の一部変更 改革プラン11：会議革命 改革プラン12：寮監業務の抜本的改革	改革プラン13：授業時間の一律標準化
始める つくる	改革プラン14：電話対応時間の設定と電話自動音声システムの導入 改革プラン15：「学校閉業日」の導入	改革プラン16：1年単位の「変形労働時間制」の導入 改革プラン17：Wi-Fi環境の整備と「生徒一人一台タブレット」の導入 改革プラン18：教育課程を基にした各教科の教員定数と非常勤講師の担当授業時間数の算定 改革プラン19：各種特別手当の支給 改革プラン20：時間年休の導入

4 本年度の重点取組と自己評価

重点取組	取組内容・方法等	自己評価
1 “徳風スタイル”の更なる進化	(1)「徳風高等学校通信教育改革プラン」の実施準備① 「土日・平日サポートコース」から「3Day・1Dayコース」への通信教育の改編を円滑に実施できるよう、改革準備委員会を立ち上げ、教育課程・学習環境等に係る条件整備や広報活動を計画的に進めます。	改革準備委員会は立ち上げなかったが、関係業務は概ね順調に進めることができた。
	(2)「自立支援型デュアルシステム」の継続実施 インターンシップの標準的な実施方法や一部の専門高校が実施する「デュアルシステム（実務・教育連結型人材育成システム）」とは異なる、本学園生徒の実態等に即した「自立支援型デュアルシステム(自称)」を、導入2年目となる本年度も学校設定科目「インターンシップ」の授業として2年次生を対象に実施します。	概ね順調に実施できた。今後は、この取組を本学園の“徳風スタイル”として定着させていきたい。
	(3)「徳風型授業研究」の計画的実施 授業力の向上と真の教育専門職としての職能成長を図るため、月1回水曜日を「レッスンスターディーデー」と銘打ち、一人の教員が行う研究授業を全教員が本校独自開発の授業評価シートを用いて参観し、授業後は授業者と参観者が研究協議を行う「徳風型授業研究」を、導入2年目となる本年度も計画的に実施します。	計画的に実施できたが、評価シートの活用方法、研究協議の在り方、参観者数に課題を残す。授業研究の目的・方法を再確認する必要がある。
	(4)「徳風総合支援プログラム」の積極的展開 特別な支援を要する生徒への指導・支援を更に充実させるため、特別支援教育コーディネータを担う生徒相談員（公認心理士）を中心に、学年主任・担任と生徒相談員との連携・協働等を通じた校内体制を強化するとともに、福祉・医療等関係機関との連携協力体制の強化を図ります。	概ね順調に展開できた。今後は、過度な役割分担意識が醸成されないよう留意しつつ、校内体制の更なる充実を図りたい。
2 “組織運営”の更なる進化	(1)「徳風高等学校通信教育改革プラン」の実施準備② 「土日・平日サポートコース」から「3Day・1Dayコース」への通信教育の改編を円滑に実施できるよう、改革準備委員会を立ち上げ、専任教員の配置など指導体制に係る条件整備を計画的に進めます。	改革準備委員会は立ち上げなかったが、関係業務は概ね順調に進めることができた。（再掲）
	(2)ミドルリーダーの育成 令和6年度に引き続き、若手教員を積極的に学校経営の幹部職員に登用するとともに、ベテラン教員による支援体制の構築と適切な権限移譲（エンパワメント）により、ミドルリーダーの育成を図ります。	40歳以下の教員7名が主任を担い、実務の中でリーダーシップとマネジメントを学んでいる。
	(3)事務体制の構築 複数の事務職員の退職等による学校事務全般の混乱・停滞が生じないよう、新任の事務職員の育成支援等を通じて盤石な事務体制を構築します。	新任事務職員の中途退職もあったが、迅速に補充・支援策を講じて事務室の人的体制を維持した。
3 “働き方改革”の更なる進化	(1)1年単位の変形労働時間制の定着 令和6年度から新たに導入した、業務の繁閑に応じて労働時間を配分する「1年単位の変形労働時間制」の定着を図ります。	概ね順調に制度の定着を図ることができた。今後は、更なる改善と総労働時間の縮減に努めたい。
	(2)寮監業務の抜本的改善 令和6年度から新たに導入した、個人事業の開業を所轄税務署に届け出た個人事業主が「宿直代行員」として宿直寮監と共に宿直寮監業務に従事する寮監体制の定着を図ります。	概ね順調に新たな寮監体制を築くことができた。
	(3)「働き方改革アクションプラン」の完全実施 令和6年度以降に実施するとした各改革プランをできる限り実施に移していきます。	就業規則を改定し、懸案であった「時間年休の導入」も実現した。

5 本年度の計画と自己評価

以下の各表において、「現状と課題」欄には当該項目に関する現在の状態と何に取り組む必要があるかについて分析した結果を、「目標（目指す状態）」欄には実現したい状態を、「実践内容」欄には目標（目指す状態）を実現するために本年度実施する内容を、「評価指標」欄にはどのような状態になれば概ね満足と自己評価できるかという指標を、「次年度行動計画」欄には評価結果を踏まえた次年度の計画を、それぞれ記入しています。

徳風高等学校全日型コース・徳風技能専門学校高等課程

(1) 教育活動

ア 学習指導

現状と課題	常勤教員が少なく、授業時間中は他の業務で授業準備に時間を割くことが難しい状況ではあるが、令和6年度から、月1回水曜日を「レッスンスターディーデー」と銘打ち、一人の教員が行う研究授業を全教員が本校独自開発の授業評価シートを用いて参観し、授業後は授業者と参観者が研究協議を行う「徳風型授業研究」を始めたところである。今後もこの取組を継続し、学習指導に関する新たな“徳風スタイル”として定着させる必要がある。		
目標 (目指す状態)	知識・技能の習得を目指す授業と、知識・技能を活用して問題解決等を図る「知識活用型授業・課題解決型授業」がバランスよく展開されており、生徒が自己成長感・自己効力感を実感しながら学力を向上させている状態を目指す。		
実践内容	授業に係る3つの共通取組（授業開始3分前の教室移動開始、授業直後のスマートフォン預かり指導、「授業の構造化」）の徹底	自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・3分前予鈴による教室移動開始を徹底した。 ・「スマートフォン預かりBOX」を全教室に配置した。 ・「授業の構造化」はどの程度徹底できたかは検証できていない。
	月1回の研究授業・研究協議を行う「レッスンスターディーデー」の継続実施 全教科・科目対象の授業満足度調査の継続実施（非常勤講師担当授業を含む。）		「レッスンスターディーデー」計6回実施 全教科・科目対象の授業満足度調査を実施した。
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒満足度調査において「学力が向上した」と回答した生徒7割以上 ・職員満足度調査において「授業力が向上した」と回答した教員8割以上 		()内の左は2024年度、中は2023年度、右は2022年度の数値を示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒69.1% (65.8%、65.8%、58.2%) ・職員76.2% (73.7%、52.4%、72.7%)
次年度行動計画	<p>○全教員の学習指導に関する指導力の向上を図るため、「レッスンスターディーデー」の取組及び全教科・科目対象の授業満足度調査を継続実施する。</p> <p>○出欠・学習状況等の管理業務及び通知表・各種証明書・調査書・生徒指導要録等の作成業務の負担軽減を図り、合理的に処理できるようにするため、本学園に適した「校務支援システム」の導入・構築に取り組む。</p>		

イ 生徒指導

現状と課題	生徒指導に関する取組への理解・姿勢に教員間格差がみられるため、徹底した共通理解・共通実践と学び合いが必要である。生徒については、SNSを介したグループ内・間トラブルへの対応や、特に女子生徒に対する個別相談の充実を継続する必要がある。		
目標 (目指す状態)	全教員が生徒の自己指導能力（その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのか、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を高める必要性について深く共通理解し、全教員の総意で決定した取組を共通実践している状態を目指す。		
実践内容	職員全員が見て見ぬふりをせず適時・適切に声かけができるよう、情報共有の機会を増やしていく。	自己評価	情報共有に努めたが、目標（目指す状態）の実現に向けた適時・適切な声かけ等の共通実践は課題が残る。

	職員、生徒共に「常に何が正しく、何が間違っているか、事をなす優先順位を正しく判断し、行動していくこと」ができるよう、お互いが声をかけ合う。	評価	職員、生徒共に左記の状態には達していない。相手の心情に配慮しつつも言うべきことをきちんと言い合える“critical friendship”を築き上げる必要がある。
	生徒が正しいこと、良いことをした時は機を逸せず褒め、職員間で共有する。		生徒の善行等についても情報共有に努めたが、「叱る指導」だけでなく自己肯定感の育成を目指す「褒める指導」についても共通理解・共通実践が必要である。
	指導・対応の「旬」を逃さず、判断・行動の基準となる規範を生徒に適宜分かりやすく伝えていく。		規範意識の更なる向上を目指し、全体指導後のフォローアップとして、各学級や一部生徒に対する分かりやすい言葉による指導を粘り強く繰り返していく必要がある。
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動による特別指導件数年間 12 件以内 生徒満足度調査において「適切な生徒指導が行われている」と回答した生徒 8 割以上 		()内の左は 2024 年度、中は 2023 年度、右は 2022 年度の数値を示す。 <ul style="list-style-type: none"> 特別指導件数 12 件 (7 件、22 件、15 件) 生徒満足度調査の結果 69.2% (61.6%、55%、69.2%)
次年度行動計画	○全教員が生徒指導の基本は生徒理解であることを深く認識し、業間・昼休み・放課後における職員室内での生徒に関する情報共有を習慣化する。 ○「指導の在り方を学び合う教員集団づくり」を進めるため、OJTの機会をつくる。 ○新規採用教員等の教員経験の少ない教員等が、「優しさ」と「厳しさ」を併せ持ち、「個性」を生かしつつ「同僚性」を高め、「自由」を愛し「規律」を尊ぶ姿勢を調和的に体現した教員に成長できるよう、ベテラン教員がメンターの役割を担う人材育成に取り組む。		

ウ 進路指導

現状と課題	進路選択が依存的で、自らの努力と責任で進路実現を果たそうとする姿勢に欠ける生徒が多い。1年次から段階的に進路意識を高め、キャリア発達の促進を着実に図ることができるよう、3年間の系統的な進路指導計画を継続的に改善しながら、全教員による共通理解・共通実践が必要である。		
目標 (目指す状態)	生徒が必要な情報を得たり教員・保護者等と適宜相談したりしながら、自分の進路について主体的に考え、行動し、自らの努力と責任で進路を決定する力を身に付けている状態を目指す。		
実践内容	学期ごとのポートフォリオ評価の実施	自己評価	学習の進捗・成果等を確認しながらキャリア発達を促すため、本年度から全学年で「進路ノート」の活用した授業を始めた。今後は、欠席生徒への対応が課題となる。
	企業見学・オープンキャンパス・進路ガイダンスに関する情報発信		全体掲示板・各教室掲示板を活用した情報発信に努めた。
	進路指導部と学年主任との連携・協働を通じた全校体制による個別面談の実施		連携不足により、全校体制による個別面談は実施できなかった。今後は、全校体制で模擬面接に取り組みたい。
	対象生徒全員に単位認定できるよう「自立支援型デュアルシステム」の早期準備と計画的実施		事前指導に加え事後指導では発表会も実施し、1名を除き当該就業体験に参加した53名全員に単位認定できた。
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> 希望どおり進路実現を果たした生徒 9 割以上 生徒満足度調査において「適切な進路指導が行われている」と回答した生徒 8 割以上 		()内の左は 2024 年度、中は 2023 年度、右は 2022 年度の数値を示す。 希望どおり進路を実現した生徒 91% (97%、91%、91%) 生徒満足度調査の結果 78.1% (74.6%、75.3%、70.9%)
次年度行動計画	○3年生に対する個別指導を強化し、進路希望の早期実現を促進する。 ○進路指導に関する年間指導計画について、真に必要な取組を精選するなどして3年間を見通した計画的・系統的な計画となるよう見直す。		

	<p>○引き続き毎学期に「キャリア教育週間」を設定し、企業・上級学校を招いた進路ガイダンス等の各取組への生徒の参加意欲を喚起しながらキャリア発達を促進する。</p> <p>○高校生向け求人票管理システム「HANDY」を新たに導入し、同システムで得られる情報を希望進路実現のために自主的・主体的に活用するよう指導する。</p>
--	--

エ 保健指導

現状と課題	令和4年度に新たな校内組織として「保健部」を設置し、保健主事と養護教諭が常駐して関係業務に従事する環境を整えたところである。今後は、同部が全教職員の協力の下、保健指導と健康教育に関するセンター的機能を発揮し続けていく必要がある。	
目標 (目指す状態)	生徒一人ひとりが心身の健康を保持しながら安心して学校生活を送ることができるよう、特別な支援を必要とする生徒に関する校内ケース会議等が適宜開かれ、当該生徒に関する必要な情報を全教員が共有し、適切な指導・対応が行われている状態を目指す。	
実践内容	特別支援教育委員会を年4回、定期的に開く。	自己評価
	夏季休業日に関係機関14カ所以上を訪問する。	
	亀山市・津市の中学校養護教諭との研修会を計画・実施する。	
	性教育講演会を昨年度に引き続き、献血セミナーを新たにそれぞれ実施する。	
	アンケート調査により新入生・保護者が望む保健室・生徒相談の在り方を把握する。	
保健室が果たす健康教育に関するセンター的機能について、年度当初にフローチャート等の資料を用いて生徒・保護者・教職員への周知徹底を図る。		
評価指標	生徒・保護者満足度調査において「適切な保健指導が行われている」と回答した生徒・保護者各8割以上	()内は2024年度の数値を示す。 生徒78.8%(76.3%)、保護者64.9%(73.8%)
次年度行動計画	<p>○本年度途中から実施している「心の健康と希望をはぐくむ自死予防教育」を引き続き実施し、保健指導担当内容を計画通り実施する。</p> <p>○新企画の「カウンセリング体験」「メンタルスケール」の実施結果を日々の生徒理解、生徒対応に効果的に活用できるようにする。</p> <p>○在籍生徒の特別支援に関する実態を数値化し、本校生徒に有効な対応について検討・提案して日々の生徒対応に繋げる。</p>	

オ 安全指導

現状と課題	近年、スマートフォンやSNSの普及など生徒を取り巻く環境の変化や学校を標的とした新たな危機事象も懸念されており、刻々と変化する社会状況を受けて発生する様々な危険への対応が迫られている。	
目標 (目指す状態)	防災対策、避難訓練、薬物乱用防止教室等を適時・適切に実施し、生徒が進んで安全で安心な社会づくりに参加し、貢献しようとする態度を身に付けている状態を目指す。	
実践内容	「学校安全計画」及び「危機管理マニュアル」の一部改定	自己評価
	安全点検の各学期1回実施と点検結果に応じた補修・修繕等の早期改善措置	
		<p>「学校安全計画」及び「危機管理マニュアル」を抜本的に見直した。特に、重大な危機事案発生時における初期対応の手順を重点的に補記・改定した。</p> <p>安全点検により不良箇所があった体育館・トリミング室・ドッグ棟各通路の照明設備を改修した。また、一部施設</p>

	事前予告なしの避難訓練の実施とその実施状況に応じた必要な改善指導		のLED化を進め、コスト低減と視認性向上を実現した。 事前予告なしの避難訓練を初めて実施した。緊張感の中で実効性のある訓練として継続実施していきたい。
評価指標	生徒満足度調査において「適切な安全指導が行われている」と回答した生徒8割以上		83.0% (76.1%) ()内は2024年度の数値を示す。
次年度行動計画	○「危機管理マニュアル」の整理 ○学期1回の安全点検の継続と点検結果に応じた早期改善措置 ○事前予告なし避難訓練の継続		

カ 特別活動

現状と課題	生徒会役員が主導する生徒会活動の活性化により、生徒主体の学校行事（体育祭・文化祭）が実施できてきている。その反面、友人関係が希薄化しており、自主的・主体的に考え行動する姿勢や社会性に欠ける生徒が多い。今後は、互いにコミュニケーションを円滑に図りながら楽しく学校生活を送れるよう、生徒の対人コミュニケーション・スキルを更に向上させる必要がある。		
目標 (目指す状態)	多くの生徒が学校行事、生徒会活動等に積極的に取り組み、学校・学級への所属感と集団の一員として自己有用感を実感しながら楽しく学校生活を送っている状態を目指す。		
実践内容	生徒が主体的に計画・実施する体育祭・文化祭の開催 新たな生徒会行事の実施 ボランティア活動等への積極的参加	自己評価	生徒会役員主導で生徒主体の体育祭・文化祭を開催した。 新たにレクリエーション大会を実施することができた 生徒会の校外活動として、街頭募金活動及び地元の伝統行事に代表生徒が参加した。
評価指標	生徒満足度調査において「学校行事や生徒会活動は有意義なものになっている」と回答した生徒8割以上		()内の左は2024年度、中は2023年度、右は2022年度の数値を示す。 80.8% (78.4%、73.6%、72.2%)
次年度行動計画	○1年間を通してコース対抗の行事を企画・実施する。 ○ボランティア活動等に積極的に参加する。 ○生徒総会を1学期中に開催する。		

キ 部活動

現状と課題	年間を通じて活動している部は少ないが、東海・全国大会に出場する生徒は少なくない。今後は、部活動の更なる活性化に向けた取組が必要である。		
目標 (目指す状態)	多くの部が活動し、その成果が学校行事や各種大会で発表・披露されることで学校に活気が溢れ、生徒の学校満足度を高めている状態を目指す。		
実践内容	生徒会主催の部長会議を開く。 生徒会予算の有効活用 部員主体の新入部員勧誘活動の実施	自己評価	部長会議を毎学期一度は開催することができた 必要な備品を整備するなど部活動が活発化してきた。 新入生歓迎会等で部員主体の勧誘活動を実施した。
評価指標	生徒満足度調査において「部活動は活発に行われている」と回答した生徒6割以上		()内の左は2024年度、中は2023年度、右は2022年度の数値を示す。 61.0% (59.1%、47.9%、48.7%)
次年度行動計画	○生徒会予算の有効活用を図る。 ○各部の紹介動画を作成・活用するなどして新入部員勧誘活動を活性化させる。		

ク 総合コース

現状と課題	生徒の満足度は高いが、慢性的に生徒数が少数であり、コースとしての方向性を明確にし、特色化・魅力化を図る必要がある。		
目標 (目指す状態)	明確化された「目指すコース像」とコースとしての存在意義の共通理解の下、生徒が課題研究を中心とした学習活動に意欲的に取り組み、希望進路を実現して社会参加を果たしている状態を目指す。		
実践内容	入学者増につながる総合コースの方向性の明確化と各課題研究の魅力化を図る。	自	各講座の明確化・魅力化を図り、入学者増に繋がった。

	「スポーツ講座」の特色化・魅力化を図る。 課題研究C「探究学習」を新設する。	自己評価	担当者を複数化し、個性を生かした講座運用とした。 当該科目を新設した。
評価指標	生徒満足度調査の結果、「選択講座の授業に概ね満足」以上と回答した生徒7割以上		()内の左は2024年度、中は2023年度、右は2022年度の数値を示す。 80.6% (89.3%、79.3%、93.7%)
次年度行動計画	○総合コースの「目指すコース像」に適した教育課程の編成・実施（特色ある選択講座の増開設、創意工夫を生かした学習内容・方法の改善等） ○優れた専門性を有する外部人材を特別非常勤講師として活用した選択講座の計画的実施。		

ケ ドッグケアコース

現状と課題	生徒によって能力や目的意識の差が大きく、個々に対応した指導方法を随時検討し、実践する必要がある。また、高い目的意識を持って本校に入学した生徒に対しても、その期待に応え、希望進路を実現できるよう、指導体制の充実と更に高度で専門的な指導の充実を図る必要がある。		
目標 (目指す状態)	全職員が「目指すコース像」について共通理解したうえで共通実践を徹底し、生徒が生き生きと学習活動に取り組み、希望する進路を実現している状態を目指す。		
実践内容	地域のイベントや校外での活動に年2回以上参加する。	自己評価	「亀山市民講座」と「亀山大市」に参加した。
	生徒の進路実現のため、トリマーやトレーナーの仕事に従事している卒業生による講話を実施し、進路について考える機会を設け、進路選択の幅を広げる。 年度末に実施する訓練・美容の検定前に対策講座を設け、合格率の上昇を図る。		冬季休業日に卒業生5名による講話を聴く機会を初めて設けた。 授業以外で別途対策講座を設けることはできなかった。
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒9割以上 生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒9割以上	評価	全員が概ね希望どおりの進路実現を果たした。 ()内の左は2024年度、中は2023年度、右は2022年度の数値を示す。 87.2% (88.9%、86.7%、81.8%)
次年度行動計画	○コース担当者間の「ベクトル合わせ」(方向性の確認、情報の共有化、報連相の常態化等)のため、毎月1回コース会議を定期開催する。 ○検定の合格率を上げるため、長期休業日に実施している集中実習のあり方を見直すなど、個に応じた指導の在り方を検討し実践する。 ○コース満足度を更に向上させるためには何が必要かを調査するため、生徒対象のアンケート調査を実施する。		

コ パソコンコース

現状と課題	生徒間で検定試験の合格状況に差があることから、全生徒に検定試験合格の目標設定が必要である。また、生徒の得意分野における能力を伸ばさせるため、自主的に学習できる環境を整える必要がある。		
目標 (目指す状態)	全生徒が複数の検定試験を受験して合格を果たし、個別に設定した検定試験合格に向けた目標を達成できるよう、自主的・主体的に学習している状態を目指す。		
実践内容	授業用アプリケーションの計画的導入(情報機器導入も含む。)	自己評価	コンピュータを活用したポスター制作・動画撮影の方法等を学ぶ授業を展開するために、撮影用機材を新調した
	資格取得に向けた啓発及び受験指導の実施(検定補習の実施:各検定前に2回) 学習成果(プログラム、制作物等)の発表機会の創出と広報活動での活用		全学年で受験指導等を授業の中で計画的に実施した。 広報活動での活用はできなかった。来年度は広報活動で配付・提示したりする案内チラシ等を作成したい。
評価指標	日本情報処理検定3級以上の取得生徒6割以上 生徒満足度調査における「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒9割以上	評価	3級以上の取得生徒67% ()内の左は2024年度、中は2023年度、右は2022年度の数値を示す。

		84.8% (87.4%、66%、73.2%)
次年度行動計画	○資格取得に向けた指導を強化する。 ○デザイン・ゲーム制作・動画作成の実習内容を新たな指導内容としてシラバスに組み入れる。 ○教員間の情報共有と共通理解を図りながら、アプリケーションソフトの選定等を計画的に行う。	

サ 日本語コース

現 状 と 課 題	令和3年度に日本語コースを設置したところであり、他コースとは異なる種々の課題を解決し、その成果を校内で共有しながらコース経営の活性化を図っていく必要がある。	
目 標 (目指す状態)	進学希望の生徒は日本語能力試験 (JLPT) の「N2」、就職希望の生徒は「N3」にそれぞれ合格して希望進路を実現している状態を目指すとともに、日本語指導を必要とする外国籍生徒等に対する後期中等教育の在り方について、本コースがその教育モデルとして広く認知されている状態を目指す。	
実 践 内 容	2年生対象のインターンシップの継続実施	自己評価
	日本語能力試験 (JLPT) 等の各種検定対策補習の実施 (6月・12月放課後週1回)	
	地域交流等の課外活動への参加 (年3回)	
	各市の進路ガイダンスへの積極的参加による日本語コースの周知	
評 価 指 標	2・3年生の「N3」以上合格者6割以上	自己評価
	3年生全員の希望進路実現	
	次年度日本語コース入学生15人以上	
	生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒9割以上	
次年度行動計画	○1年生全員の「N4」合格、3年生全員の「N3」合格を目指した指導の強化。 ○2年生全員のインターンシップ実施を目指したビジネス日本語及びビジネスマナーに関する指導の強化。 ○2年次以降の普通教科・科目の学習支援継続。 ○地域社会への適応と共生を目指した地域住民等との交流機会の確保。 ○日本語コース入学者増を目指したインパクトのある広報チラシの新規作成。	

(2) 学校運営等

ア 教育環境の整備・管理

現 状 と 課 題	防火対策に係る工事を進めるとともに、設備更新や改修・修繕を要する箇所を洗い出し、計画的に対策を講じていく必要がある。
目 標 (目指す状態)	生徒・職員が安全な環境の中で安心して学校生活を送れるよう、施設設備等に起因する事故を防止するとともに、施設設備管理の瑕疵による賠償責任を負うことがないよう、必要な修繕・工事や環境衛生検査の計画的実施等により適切に教育環境が整備され、維持管理されている状態を目指す。

実践内容	ICTに関わる教育備品等の継続導入。	自己評価	ICTに関わる教育備品等の本年度予定分を導入した。
	優先順位を付けた工事の計画的実施の継続。		優先順位の高い修繕・工事を適宜実施したが、防火対策関係工事は着手できなかった。
評価指標	治安対策として木の剪定の継続実施。		急を要する剪定を早期に実施した。
評 価 指 標	計画した工事の8割以上実施		生徒寮の空調設備及び情報棟の屋根の修善、濁り水対策として貯水槽の再点検、年2回の除草作業等を実施した。
次年度行動計画	○ICTに関わる教育備品等の継続導入。 ○優先順位を付けた修繕・工事の計画的実施の継続。(防火対策に係る工事を含む。) ○安全点検の結果に基づく必要な修繕の早期実施の継続。 ○治安対策として木の剪定の継続実施。 ○照明のLED化の計画的実施。		

イ 広報・生徒募集

現状と課題	教育活動の特色化・魅力化に向けた経営努力が入学増に繋がりにくい状況が続いており、特に伊賀地区、松阪地区及び滋賀県からの入学者が減少傾向にある。今後は、「徳風スタイル」による学校経営が県内外の中学校に一層周知され、入学増に繋がる広報の在り方を追求する必要がある。		
目 標 (目指す状態)	「中学生の若い感性に響き、本学園への入学意欲を喚起する広報」・「保護者の注目を集め、本学園への期待を高める広報」・「中学校教員の進路指導に役立ち、本学園への信頼・信用を高める広報」を目指した「広報部」主導の広報・生徒募集活動が功を奏し、毎年度、募集定員を概ね充足する入学数を維持している状態を目指す。		
実践内容	新たに募集を開始する「3Day・1Dayコース」に関する広報活動の効果的実施	自己評価	近隣中学校への徹底周知や分かりやすくインパクトのある広報パンフが奏功し、募集定員を超える出願があった。
	ホームページ、SNS等を積極的かつ有効に活用した新たな広報活動の実施		公式 Instagram の活用など広報媒体の多様化を図った。
評価指標	本校の転入学制度の弾力的運用に関する高等学校対象の広報活動の強化		県立高校等への周知により生徒増に繋がった。
評 価 指 標	令和8年度全日型コース入学生前年度比1割増(67名以上)		70名
次年度行動計画	○全国的に展開する広域通信制高校の動向を背景に、「3Day・1Dayコース」の教育内容・方法等の特色・価値を分かりやすくアピールする。 ○各コース等の魅力や改善点等を精査のうえ、「中学校訪問」の効果的な実施に向けた事前研修を計画・実施する。 ○Instagram以外の広報媒体の可能性を探り、SNSを通じた広報活動の多様化を図る。 ○中学校の入試説明会等で役立つ広報グッズ(バナースタンド等)を購入する。		

ウ 組織運営

現状と課題	主任会に替わる少数精鋭の「学校経営委員会」の設置をはじめ、これまで組織運営の効率化・活性化に向けた組織改編を繰り返してきたが、今後は、これらの組織改革の成果を検証しつつ、令和2年度に策定した「働き方改革アクションプラン」を計画的且つ確実に実施していく必要がある。		
目 標 (目指す状態)	職員一人一人が「報告・連絡・相談・確認」を必要に応じて適切に行いながら職務を遂行し、「誰の仕事でもない仕事は自分の仕事」、「他者のために尽くすことが自分の仕事」などと考え行動する「協働」の姿勢と「利他」の精神を体現した職員が多い状態を目指す。		
実践内容	毎朝の職員全体打合せ終了後に「管理職打合せ」を行い、管理職間の連携を強化する。	自己評価	毎朝の「管理職打合せ」をルーチン化し、課題解決の方向性、業務の進捗状況等の共有を常態化した。
	若手教員を主任に登用するなどミドルリーダーの育成を強化する。		常勤教員19名中40歳以下の教員7名が主任を担い、実務の中でリーダーシップ・マネジメントを学んでいる。
評価指標	過重労働防止・健康経営促進の観点から、主任兼務の教員をできるだけ少なくする。		主任兼務の教員3名の勤務状況を踏まえ、教頭が補佐するなどして過重労働の抑制に努めた。
評 価 指 標	職員満足度調査で「報告・連絡・相談・確認は概ねできた」と回答した職員6割以上		()内の左は2024年度、中は2023年度、右は2022年度の数値を示す。

		61.9% (45.0%、27.3%、40.9%)
次年度行動計画	異校種2校を設置する本学園のガバナンス機能を強化し、“徳風スタイル”による学校経営・教育活動の「持続可能性の維持」から「発展可能性の追求」への進化を図るため、次の組織運営の改善に取り組む。 ○「3部制」(高等部・専修部・事務部)の導入 ○「専決」を可とするなど教頭・主幹教諭・主任のエンパワメント促進と負担軽減 ○「目標管理型コース経営」の徹底 ○通信教育担当者の専任化 等	

エ 学校満足度

現状と課題	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を引き続き実施し、その結果を学校運営改善に役立てる取組を定着させる必要がある。	
目標 (目指す状態)	生徒が「この学校で学べて良かった」、保護者が「この学校に通わせて良かった」、教職員が「この学校で勤務して良かった」という状態を目指す。	
実践内容	満足度向上の阻害要因を分析し、その結果と必要に応じた対策を講じる。	自己評価 生徒・保護者の満足度向上を図るため、本学園の価値宣言「生徒・保護者・職員・学校関係者とのコミュニケーションを大切にします。」と「職員の行動3原則」のうち第一の原則「コミュニケーション」について、職員会議の場で全職員が改めて確認した。 生徒会役員の生徒から要望を聞く機会を持ち、要望のあった機器を設置した。 就業規則に時間年休取得を明記した。 ()内の左は2024年度、中は2023年度、右は2022年度の数値を示す。 生徒 78.8% (73.5%、68.8%、62.9%) 保護者 74.6% (70.7%、77.2%、77.2%) 職員 76.2% (40.0%、45.4%、59.1%)
	民主的な手続きを経た生徒会からの要望は、その実現に向けて真摯に対応する。	
	年5日を限度とする「時間単位年休」の取得を可とするなど「働き方改革」を進める。	
評価指標	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査で「本学園に概ね満足している」と回答した生徒・保護者・職員各8割以上	
次年度行動計画	○生徒会活動の活発化が著しいことから、民主的な手続きを経たうえでの生徒会からの要望は、引き続きその実現に向けて真摯に対応する。 ○令和6年度から導入した「1年単位の変形労働時間制」の過去2年間の状況を踏まえ、より効率的に業務に従事できる合理的な労働日・労働時間配分となるよう、次年度の労働日・労働時間・休日を見直す。	

徳風高等学校土日コース・平日サポートコース

現状と課題	両コースともに在籍生徒が少なく、「不活発生」が多い。また、履修登録をした科目の授業でも欠席する生徒が少なくなく、全員が欠席する授業もある。さらに、全日型コースに比して指導・支援が手薄になる傾向がある。今後は、このような現状を改めるべく、「土日・平日サポートコース」から「3Day・1Dayコース」への通信教育の改編を進めるなど、本校の通信教育を抜本的に改革する必要がある。	
目標 (目指す状態)	「不活発生」がおらず、在籍生徒全員が「自立と社会参加」を目指し、毎日登校しなくても勉学と就労等の両立を図りながら単位修得・進級・卒業を果たしている状態を目指す。	
実践内容	面接指導の基本的な展開方法を見直し、授業出席生徒数を増やす。	自己評価 面接指導を「集中スクーリング」に集中させることにより出席率が向上した。 添削指導の在り方に関して、課題レポートの記載内容を見直し、添削の具体的方法について改善を図った。
	添削指導に係る課題レポートへの記載内容を見直し、レポート提出者数を増やす。	

	履修登録を行わない「不活発生」の在籍関係を精査し、必要な対応・指導を行う		「3Day・1Dayコース」への改編に伴い、次年度以降の体制について面接指導時に周知徹底を図った。
評価指標	生徒対象の満足度調査で「本校に概ね満足している」旨回答した生徒7割以上		満足度調査を実施することができなかった。
次年度行動計画	○「3Day・1Dayコース」への改編に伴う混乱等が生じないよう、在籍生徒への徹底周知を継続する。 ○生徒の対象の満足度調査を実施する。		

徳風高等学校技能連携校コース

現状と課題	技能連携校2校（鴻池学園高等専修学校及び大阪技能高等専修学校。以下「当該2校」という。）は高等学校通信教育規程に基づく通信教育連携協力施設であり、当該2校と良好な連携協力体制を築きながら、適正かつ効果的に通信教育を実施する必要がある。		
目標 (目指す状態)	当該2校の生徒一人ひとりが専門的な知識・技能を習得しながら、本校での単位修得・進級・卒業を果たしている状態を目指す。		
実践内容	高等学校通信教育規程第14条第1項の規定に基づく情報公開を引き続き行う。	自己評価	本学園のホームページで「令和7年度教育活動等情報公表シート」を掲載した。
	連携協力会議を引き続き年1回以上実施する。		令和7年8月上旬に当該2校を訪問し、それぞれ連携協力会議を1回実施した。
引き続き生徒対象の満足度調査を実施し、改善の基礎資料とする。	当該2校の生徒対象の満足度調査を実施した。		
評価指標	生徒対象の満足度調査で「本校の面接指導・添削指導・試験に概ね満足している」旨回答した生徒7割以上		当該2校の平均は64%であった。
次年度行動計画	○次の取組を継続する。 ・高等学校通信教育規程第14条第1項の規定に基づく情報公開 ・各技能連携校との連携協力会議年1回以上開催 ・技能連携校コース在籍生徒対象の満足度調査の実施		

徳風技能専門学校専門課程

現状と課題	徳風高等学校の卒業者に限るとする受入方針を令和3年度入試から改め、三重県立高等学校の卒業者も入学定員の5割を上限に受け入れることとしているが、入学者は極めて少ない状況にある。少人数教育の利点を活かしつつ、学生募集にも一層注力する必要がある。		
目標 (目指す状態)	三重県立高等学校への広報・募集活動が功を奏し、徳風高等学校からの入学者と併せて入学定員を充足する入学者数を継続的に確保している状態を目指す。		
実践内容	教務内規を抜本的に見直す。	自己評価	学習評価の方法を見直すなど教務内規を一部改定した。
	各学科に応じた各種検定試験等の対策を強化する。		トリミング科では「愛玩動物飼養管理士試験」の受験対策を強化した。
全科目対象授業満足度調査及び学校満足度調査を各学期末に実施する。	本年2月上旬に実施した。		
評価指標	年度末の学校満足度調査で「概ね満足」と回答した学生7割以上		在籍学生数3名のため、数値指標による評価は困難であるが、概して専門科目の満足度は高い。
	令和8年度新入学生10人以上		トリミング科2名、コンピュータ科0名
次年度行動計画	○入学者増に向けた広報活動（オープンキャンパス、高校訪問等）を積極的に展開する。		

- 次年度のできる限り早い時期に広報関係の配付物（パンフレット・リーフレット・チラシ等）を完成させる。
- 皮膚や被毛の美容を学ぶ「犬の美容学」及び愛玩動物飼養管理士の資格取得を目指す学習活動をトリミング科の教育課程に位置付ける。
- ブリーダー等訪問者が多いため、清掃の徹底により実習環境を整え、接遇マナーやコミュニケーション・スキルの向上のための指導を強化する。

6 本年度の学校関係者評価

- 当学園に対する市民の見方が変わってきたように思われる。広域通信制高校として、亀山市・三重県だけでなく近隣の地区・地域にとっても「なくてはならない学校」として存続し、特色のある実践を行う学校として進化を続けていってほしい。
- 「働き方改革アクションプラン」や「徳風高等学校通信教育改革プラン」は、トップダウンで決まった計画ではなく、校長が主宰する学校改革特別委員会での協議の結果について理事長の決裁を得て決まった計画ということだが、今後も大きな改革を行うときは、このような手続きを経て、できるだけ多くの教職員がコミットする形で進めていくとよい。
- 「自立支援型デュアルシステム」や「徳風総合支援プログラム」の取組は、学校以外の企業、行政その他関係機関との連携協力体制がなければ成立しない。この体制を生徒の成長・発達に必要な「教育資源」として捉え、「地域の子どもは地域で育てる」との理念を大切に、良好な関係を維持していってほしい。
- 生徒指導について、高校段階の子どもは突っ張ることが格好良いと思いがちなので、不適切な言動があったときはきちんと叱る必要があるが、褒める指導の重要性についてももっと強く認識されてよいのではないかと。褒められた経験が生徒の生き方や人生そのものを大きく変えるきっかけになることもある。
- 特別活動について、文化祭等の学校行事を今後も生徒主体で実施できるよう指導を続けていってほしい。また、地域のイベントに参加する生徒が生き生きと活動する姿を他の生徒が見ることができるよう機会があるとよい。社会性向上への自覚を促すことができる。
- 総合コース以外の3コースについて、検定試験の合格率を毎年度の継続的な評価指標とするなど、資格取得を核に据えた生徒のキャリアアップにもっと注力してもよい。

7 次年度の主な行動計画

上記4～6を踏まえた次年度の主な行動計画は以下のとおりです。

(1) 「徳風高等学校通信教育改革プラン」の着実な実施

令和6年12月に策定した「徳風高等学校通信教育改革プラン」に基づき、「3Dayコース・1Dayコース」を新たに立ち上げ、オンラインを使用しない高等学校通信教育を開始します。「指導の個別化」と「学習の個性化」の充実を図りつつ、生徒と教師の関係性及び生徒同士の関係性すなわち「集団性」を大切に通信教育を展開し、要件を満たせば全日型コースへの転籍も可能にする特色ある通信教育を展開する計画です。

(2) 校内組織とその運営方法の改革

「土日コース・平日サポートコース」の「3Dayコース・1Dayコース」への円滑な改編、異校種2校を設置する本学園全体のガバナンス機能の強化及び“徳風スタイル”による学校経営・教育活動の「持続可能性の維持」から「発展可能性の追求」へと進化を図るため、次のとおり校内組織とその運営方法を改革する計画です。

- 「3部制」（高等部・専修部・事務部）の導入と各部長によるマネジメント機能の強化
- 「専決」を可とするなど教頭・主幹教諭のエンパワメント促進と負担軽減
- 「専決」を可とするなど主任のエンパワメント促進と「目標管理型コース経営」の徹底
- 専門課程主任の廃止と主幹教諭によるマネジメント機能の強化
- 通信教育担当者の専任化

(3) 「心の健康と希望をはぐくむ自死予防教育」の計画的実施

生涯にわたるメンタルヘルスの基礎づくりを目的として、「自死の危険とその対応について正しい知識を身に付けている生徒」、「自分が心の危機に陥ったときに適切な助けを得ることができる生徒」、「友人が心の危機に陥ったときに“ゲートキーパー”（気づき、声をかけ、話を聴き、必要な支援につなげ、見守る人）になることができる生徒」の育成を目指す「心の健康と希望をはぐくむ自死予防教育」を、専門家の協力を得ながら計画的・系統的に実施する計画です。